

**ヒダアザミ** *Cirsium tashiroi* Kitam. subsp. *hidaense* (Kitam.)

**【除外理由】**

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 10。分布域の狭い準固有種であるが、県内では生育地も個体数も多く、当面絶滅が危惧される状態ではない。

**【形態】**

多年生草本。茎は高さ 30~80cm になる。葉は茎の基部に集まり、根出葉は花時にも残存し、長さ 15~30cm、切れ込まないものから羽状に全裂するものまであり、先端は鋭頭、切れ込まないものでは葉身は卵形~楕円形、基部は広くさび形~浅い心形で長い柄があるが、切れ込むものでは葉身は長楕円形、柄は短い。花期は 9~10 月、頭花は少数で、長い柄の先に下向きにつき、総苞は長さ 15~17mm、幅 1cm 程度、総苞片は 6 列で先端は開出し、刺針となる。花冠は紅紫色で、長さ 18~20mm である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

東：1 富山 (小林 48063, 1993-9-19)、2 豊根 (小林 39833, 39834\*, 1992-10-4)、4 津具 (芹沢 90548, 2015-9-5; 芹沢 91517\*, 2016-9-11)、8 鳳来北東部 (小林 62256, 1997-9-13)、12 新城 (小林 40107\*, 1992-10-24)。  
西：5 稲武 (芹沢 85177\*, 2009-10-10; 芹沢 91508, 2016-9-11)、19 旭 (芹沢 90783, 2015-10-10)、22 小原 (伊藤泰輔 106, 1992-9-27; 伊藤泰輔 122\*, 1992-10-10)、23 藤岡 (日比野修 920, 1992-10-4)。\*は葉に切れ込みがない型である。標本は作成しなかったが 6 設楽西部でも見ており、また 3 東栄にもあるという (小林 2006)。県内の分布は三河山地に限られており、丘陵地では見られない。44b 南知多のものはシノジマアザミとして区別し、183 頁に掲載した。

**【国内の分布】**

本州 (静岡県西部~岐阜県) に分布する。基準亜種のワタムキアザミ subsp. *tashiroi* は、鈴鹿山脈とその周辺に生育している。

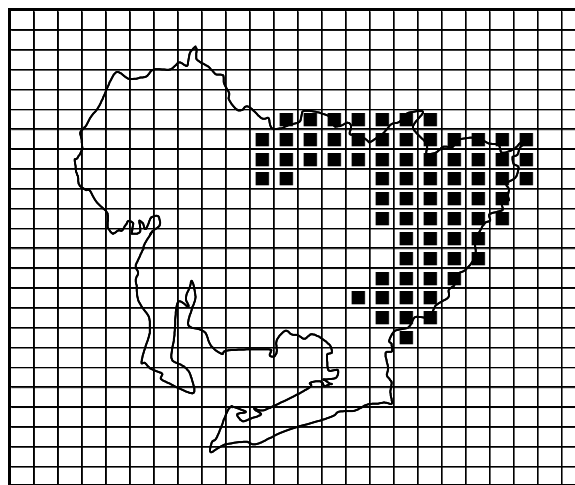
**【世界の分布】**

日本固有亜種。種としても日本固有である。

**【生育地の環境/生態的特性】**

山地の林内や林縁に生育する。沢沿いに多いが、尾根近くに見られることもある。自然林内にも生育しているが、どちらかといえば軽度の攪乱を受けた場所に多い。

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

**【現在の生育状況/減少の要因】**

三河山地には点在している。しかし、ニホンジカによる食害を受けて減少しており、このままでは近い将来、準絶滅危惧種に移行する可能性がある。

**【保全上の留意点】**

現在はまだ多いが、分布域が比較的狭い植物であるから、それなりに配慮を要する。特にある程度自然度の高い場所に生育している場合は、注意して生育地を保全する必要がある。

**【特記事項】**

2009 年版では、ワタムキアザミの名で掲載した。

**【引用文献】**

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.205. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

**【関連文献】**

保草本 I p.33, 平草本III p.215, 平新版 5 p.232, 環境省 p.526.